

3. 猫のニーズを満たすには

猫が健康でいきいきと幸せに生活するために必要な事（ニーズ）をしっかりと満たしてあげましょう。ニーズを満たせば問題行動を防ぐこともできます。

健康管理

獣医療の進歩と共に昔は防げなかった病気もワクチンなどで予防でき、猫の寿命は延びてきています。しかし猫には犬に比べてワクチンで防げない感染症も多いので、室内飼育はその予防のためにもお薦めします。普段から猫の様子をチェックし、何か少しでも体調の変化に気付いたらすぐに動物病院で診察を受けましょう。特に食事をまったく取らない・尿が出ていない・尿の様子がいつも違う、ということがあればすぐに相談をしてください。不妊去勢手術の実施も、病気の予防という観点からも、不幸な動物を増やさないという意味においても必要不可欠です。



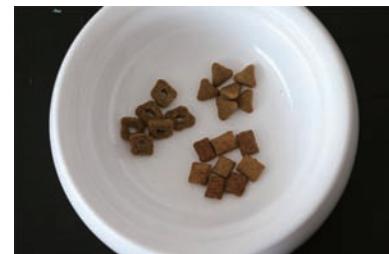
食事と水

■ 食事の内容

猫は犬に比べてはるかに肉食傾向が強く、より多くのタンパク質や脂質が必要な動物です。現在では多くのキャットフードが市販されていますから、基本的にはこれを上手く取り入れ猫の主食にするとよいでしょう。手作りで猫のご飯を作る際にも、キャットフードを使用する際にも、各猫にあわせた健康を害さないバランスのとれた食事を与えるようこころがけましょう。また子猫の頃からいろいろな形状・味のキャットフードを与えましょう。猫の味らいは社会化期にしか広がらないので、この時期に経験していない食べ物は将来受けつけなくなります。高齢になって療法食を食べる場合や災害時に備えて、さまざまなフードが食べられるようにしておきましょう。

■ 食事の工夫

角がない平たい食器を使いましょう。猫の舌は犬のようにはできないので食器の角に詰まつたものがうまく舐め取れません。また鼻の短いタイプの猫（長毛種に多い）にウェットフードを与えるときには少し小さな山を作つてあげると食べやすいでしょう。



■ 新鮮な水

猫は本来水の少ない砂漠地帯で家畜化されてきた背景から、水をあまり積極的に飲もうとしない傾向が強くあります。とはいえた水分を充分に摂取しないでいると、様々な病気を引き起こす可能性があります。なるべく多くの水を飲んでもらえるよう工夫しましょう。たとえば水を入れる容器は陶器や磁器でできているものの方がプラスチック製のものより好み、水の摂取量が増えることが多いようです。いつでも新鮮な水が飲めるよう猫が飲みやすい場所に用意してあげましょう。



電動で水流が流れる水の器。
猫の興味を引いて飲水量がUP

■ 複数頭の場合

猫を複数頭で飼育する場合に、考えなくてはならないことはそれぞれの猫の健康管理です。どの猫がどれだけ食べたかを確認するためにも、一頭ずつ別々の食器で食事を与えることをお勧めします。通常は同じフードを食べても病気療法食が必要となったり、年齢差が離れている場合にはライフステージ別のフードを食べる時期が来るので、最初から別々の食器で食べさせることに慣らしておきましょう。他の猫の食べ残しを別の猫が食べ肥満につながるといったことを予防するためにも、食器だけではなく食べる場所も一頭づつ分けた方がいい場合もあります。



本能を満たす

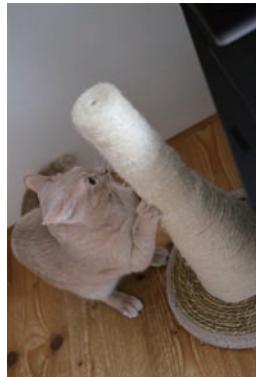
■ マーキング



猫は自分の縄張りや気に入ったものに対して、様々な印をつけます。その印の多くは「臭い」。体のあちこちにある臭腺から体を擦り付けることにより臭いを残します。家具や壁の角などに頬や体をこすりつけて

いるのはこのマーキングという行為です。また爪を研いた跡を残すこと、尿をかけることでも自身の存在を主張することができます。尿マーキングの多くは去勢手術で改善されますが、体を擦り付けることや爪とぎを完全になくすることは不可能に近く、室内にある程度こういった欲求を満たせるものを置いてあげる必要があります。

■ 爪とぎ



爪とぎは適切な物がなければ、室内の適当な場所（壁や柱やソファーなど）が格好の餌食になります。さまざまな猫用の爪研ぎが市販されていますので色々な素材のものをいくつか用意し、その猫の好みにあわせて設置してみてください。設置する際には床に直接置くだけでなく、壁面に貼付けるなど縦に設置し、猫が背伸びをしながら爪が研げるようにしておくのも大切なポイントです。そういった爪研ぎを各部屋に2個以上設置しておくと、家具などへの爪研ぎ被害は少なくなるはずです。

人とのかかわり

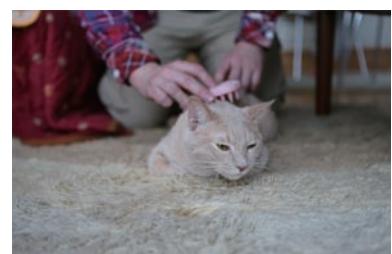
■ なでる

多くの猫は体を触られることを好みます。リラックスしているときに優しくここちよく触る時間を増やして、例えば体調が悪いときなどとっさのときにも触らせる猫にしておくといいでしょう。体を触らせることが好きではない猫の場合、しつこくしないことがポイントです。猫自身からすり寄ってきたときであっても少しだけのさらっとした挨拶にとどめましょう。しつこくするとかまれたり引っ搔かれたりすることがあります。そのようなタイプの猫は、なるべく首から上（頭部）を触るようにしましょう。もともと猫は猫同士のふれあい（ソーシャルグルーミング）も頭部のみで体全体は行わないものです。その習性をまねしてみましょう。



■ ブラッシング

猫には「毛玉症」という毛玉が詰まる病気があります。食事やサプリメントで予防もできますが、一番よいのはブラッシングで抜け毛を取り除くことです。毛の短い猫にはラバーブラシ、中長毛の猫にはピンブラシやコームを使って適切にブラッシングするといいでしょう。猫が遊んで疲れたときや眠そうになったときが適切なブラッシングタイムです。飼い主が自分の体に当てて気持ちがいいと思う程度の圧力でブラシをあてましょう。猫は本来グルーミングが好きな動物ですから、上手にコミュニケーションをとりながらブラッシングする習慣をつけましょう。



■ 爪切りに慣らす

猫はもともと捕食性の動物です。獲物をとるために爪を尖らせておく必要があり、頻繁に爪を研ぐ傾向があります。古い爪の鞘を外し、より獲物が捕りやすい新しい爪にするのです。

しかし現代の室内で飼われる猫は、充分な食事を与えられ獲物を捕る必要はないので、子猫の頃から爪切りを習慣にしておくとよいでしょう。最初は猫が食事をしている最中に一日一本爪を切る習慣を付けてみましょう。嫌がる猫を無理やり押さえ込んで一気に全ての爪を切るのは爪切り嫌いな猫を増やすだけです。食事を邪魔されるのが嫌いな猫は眠たそうにしている時に一本だけ切り、切った後のご褒美として体をゆっくり触ってあげるとよいでしょう。



運動欲求を満たす（エネルギー発散）

猫を室内飼育する際の唯一のデメリットは、猫が退屈しやすいことです。特に若い猫たちは捕食行動が非常に激しく、刺激の少ない室内では動くものが飼い主の体しかないことから飼い主にじゃれつけます。ひっかかれたり甘噛みで悩む飼い主さんは少なくありません。猫を室内飼育にするのであれば、猫の運動欲求をしっかりと満たしてあげましょう。

一緒に遊ぶ

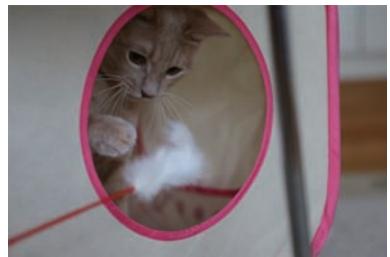
猫と毎日しっかりと遊んであげることで、捕食行動が適切に満たされるだけでなく飼い主さんとの絆も深まりよいコミュニケーションをとれます。単独生活を好むように思われている猫ですが、実は社会性の高い動物です。室内飼育されている猫の場合は他の動物との接点がありませんから、その分飼い主が毎日コミュニケーションをはかりかまつてあげる必要があります。

猫と遊ぶ際に忘れてはならないルールは一つ！それは人間の体をオモチャにして遊ばせないことです。手や足で猫をじゃらすことを習慣にしてしまうと、猫は人の体を遊び道具だと思いかなりひどい怪我をすることがありますので注意してください。

一緒に遊ぶオモチャ



飼い主さんが手に持ち動かすことによって猫に全身運動をさせることができます。コツは「取れそうで取れない」ように動かすこと。そして時々猫にくわえさせたり、爪に食い込ませてやりましょう。オモチャを家具の上から床まで動かし猫に追わせると上下運動にもなります。上手にオモチャを動かして猫にエネルギーの発散をさせましょう。



ひとり遊び

猫用のオモチャとして多くのオモチャが市販されています。まずはいくつか購入してその猫の好みを探ってみましょう。もし猫がオモチャをすぐに壊してしまったり、噛みちぎって飲み込んでしまうことがあれば、そのオモチャは留守中に与えるのは避けましょう。誤飲を防ぐためです。

飽きさせないコツは同じものをずっと与えっぱなしにしないこと。定期的に新しいものと取り替え、ローテーションを組み適切な刺激を、与えましょう。

オモチャの工夫

市販のオモチャにひもや洋服に使用するゴムなどをくくり付け、ドアノブ・フック・イスの背もたれにしばっておきます。留守がちな方はこういったオモチャを複数用意してから出かけるようにすると、猫が勝手に遊んでいてくれるでしょう。飽きさせないコツはオモチャを吊るす場所を毎日変えること、吊るすオモチャをローテーションで取り替えて変化をつけることです。猫によってはひもを体に巻き付けてしまう場合もあるのでまずはどんな遊び方をするのか飼い主さんが見ていられる時に試してから留守中に使用してください。



フードを入れることができるオモチャ

肥満傾向にある猫や食欲が旺盛ですぐに催促する猫におすすめなのは、透明の中にフードを詰めることができるタイプのオモチャです。オモチャには穴があいていて、猫が前足や体を使って転がすと、穴からフードが少量ずつ出てくるしくみです。まずは少量のフードを入れて猫がオモチャを転がすのを手伝いながら遊び方を教えてあげましょう。慣れてくれば食事を全てこの中に入れても大丈夫です。取り出して食べるためにはかなり体を動かすことになります。また、このオモチャは空になったペットボトルで簡単に作ることができます。カッターでペットボトルに穴を開け、猫が怪我をしないようにガムテープやビニールテープで切り口をガードしましょう。ペットボトルのどこにどんなサイズの穴を開けるかで、フードの取り出しやすさを調整することができます。留守がちな家庭で飼われている猫にも良いオモチャになるでしょう。



■誤飲に注意



猫は犬に比べて捕食性行動が強く、動くものに強く反応します。お菓子の包み紙・アルミホイルのかけらなどであっても家庭にあるものが全て猫のオモチャになる可能性があります。いたずらされて困るもの、飲み込んでしまいそうなものは片付けましょう。また市販の猫用のオモチャでも、あまりにも小さく口の中にくわえこんでしまえるものや噛みちぎれるものなど、誤飲すると危険なものもあるので注意してください。

■生活に刺激を！

部屋の中に、ときどき新しい刺激を加えるのもいいでしょう。いらない段ボールや紙袋（持ち手は猫の体に絡むと危険なのではずしましょう）、猫草などを置くことで好奇心を刺激します。猫にとって安全なものかどうか考えて置きましょう。

ケージを使うときの注意！

猫を長時間ケージに入れっぱなしにしないようにしましょう。猫はケージの中にいる間は、活動的に動き回ることができません。するとその反動で、ケージから出して部屋を自由にさせた時に非常に活動的になり、部屋中を暴れまわったり、飼い主に対してじゃれ噛みをしたり引っかいたりしがちです。こうなると手が焼けるので、またケージに戻してしまう、また出すと大騒ぎ！の悪循環になります。ケージを使う場合は出し入れを頻繁にして、長時間猫を入れっぱなしにしないようにしましょう。

